

県立大学 小浜・かつみキャンパスを 育てる会

第33号 | 令和8年6月



会報



ごあいさつ

会長 杉本 和範

地域の皆さまには、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
日頃は本会の諸事業に格別のご理解と、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、本会は、小浜キャンパスの開学に先立ち結成され、以来、地域から親しまれる大学となるよう各種事業を行って参りました。

令和4年度には、水産増養殖を専門的に学べる「先端増養殖科学科」が海洋生物資源学部に新たに設置され、令和5年10月には「先端増養殖科学科」のメインキャンパスとして、新たに「かつみキャンパス」が供用開始されたことにより、今後、嶺南を拠点とした養殖技術の更なる発展や、将来の地場産業を担う人材の育成につながるものと大きな期待を寄せております。

育てる会としましても、地域に開かれた大学・地域住民に親しまれる大学となるよう後押しするために、これからも活動を支援するとともに、地域との交流を促進し、大学と地域が共に発展できるよう、各種事業を展開してまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



ごあいさつ

福井県立大学海洋生物資源学部長 水田 尚志

「小浜・かつみキャンパスを育てる会」の皆さまには、定置網漁業体験や魚加工品製造体験、さらには学生や教員の研究フィールドの提供など、本学海洋生物資源学部における教育および研究に対して多大なるご理解とご支援・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

本年3月には先端増養殖科学科が初の卒業生を輩出し、4月から卒業生が社会に羽ばたきました。小浜・かつみ両キャンパスにおいて、大学院生および教員も含め、約350名が素晴らしい自然環境と充実した設備の下、教育・研究に打ち込んでおります。昨年度に引き続き、今年度も地域の皆様との交流ができることを楽しみにしております。

公立大学である福井県立大学海洋生物資源学部の教員一同、常に地域や社会への貢献を意識しながら、教育および研究活動の充実を図りたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

育てる会 からのお知らせ

育てる会では、地域の方々に県立大学をより身近に感じていただくために、また、学生の皆さんには、若狭地域により愛着を持っていただくために、様々な事業を実施しています。

また、育てる会は、かつみキャンパスが設立されたことを機に、令和6年6月から「県立大学小浜・かつみキャンパスを育てる会」に名称を改め、小浜とかつみ一体となって取り組んでいます。

「令和7年度 総会・地域講演会」を開催しました！ ＜令和7年6月＞

令和7年6月17日（火）に小浜市働く婦人の家（現・咲楽館）で令和7年度の総会・地域講演会を開催しました。

1年間の事業方針や計画が承認された後、県立大学海洋生物資源学部の吉浦康寿教授よしうらやすとしに『地球温暖化に対応する高温耐性養殖魚の開発』と題してご講演いただきました。



教育GP「漁業体験」が実施されました！ ＜令和7年9月＞

宇久定置網有限会社うらたにとしはるの浦谷俊晴様、県立大学の教員のご協力のもと、小浜市宇久において、定置網漁の体験が行われました。当日は天候



にも恵まれ、学生の皆さんが、地域の一次産業の現場を肌で感じる良い経験となりました。育てる会からも企画実施を補助金により支援しています。



大学祭「第33回 白樫祭」が開催されました！ ＜令和7年10月＞

令和7年10月4日（土）、5日（日）に県立大学小浜キャンパス（学園町）で第33回白樫祭が開催されました。令和7年度は、『KAIKYOU（海・響）』をテーマに様々なイベントが開催され、育てる会からも企画実施を補助金により支援しています。



令和7年度 県立大学小浜・かつみキャンパスを育てる会 事業報告

4月	21日	令和7年度 若狭地域産学官水産連絡会議 第1回幹事会					
5月	16日	令和7年度 計画会議					
6月	10日	令和7年度 若狭地域産学官水産連絡会議 総会					
	17日	令和7年度 総会					
	17日	地域講演会 ・県立大学海洋生物資源学部先端増養殖科学科 吉浦 康寿 教授 「地球温暖化に対応する高温耐性養殖魚の開発」		9月	16日	出張キャンパス（おおい町名田庄小学校） ・県立大学海洋生物資源学部海洋生物資源学科 杉本 亮 教授 「小浜の水を知ろう」	
	25日	会報 第32号発行（市内全戸配布）			16日	教育GPへの支援（宇久漁港定置網漁業体験）	
7月	11日	出張キャンパス（加斗小学校） ・県立大学海洋生物資源学部先端増養殖科学科 瀧口 昌己 教授 「魚や海の生き物のはなし」			4日、5日	大学祭（白樺祭）への支援 （広報・模擬店買い物券発行・補助金等）	
8月	4～6日	出張キャンパス（若狭町三方児童クラブ） ・県立大学大学院生物資源学専攻科海洋生物資源学専攻 小林泰士氏、宮脇英慈氏、成相龍平氏 （博士前期課程2年） 「顕微鏡をのぞいてみよう」			15日	出張キャンパス（雲浜小学校） ・県立大学海洋生物資源学部海洋生物資源学科 杉本 亮 教授 「小浜の水の特徴について」	
					10月	30日	出張キャンパス（西津小学校） ・県立大学海洋生物資源学部海洋生物資源学科 兼田 淳史 教授 ・県立大学大学院生物資源学研究科海洋生物資源学専攻 山田 拓海氏（博士前期課程2年） 「海の流れと物の動き」
9月	9日	出張キャンパス（高浜町内浦小中学校） ・県立大学海洋生物資源学部海洋生物資源学科 小路 淳 教授 「魚や海の生き物のはなし」			12月	10日	出張キャンパス（加斗小学校） ・県立大学海洋生物資源学部先端増養殖科学科 瀧口 昌己 教授 ・県立大学海洋生物資源学部先端増養殖科学科 小針 溪氏（学部3年） 「魚や海の生き物のはなし」
					2月	16日	令和7年度 若狭地域産学官水産連絡会議 第2回幹事会
					通年		学生に対する各種情報の提供

出張キャンパスのご案内

育てる会では、小中学生等の皆様に海をはじめとする自然に対する興味を深めていただくため、また、小浜キャンパス、かつみキャンパスを身近に感じていただくために、小浜キャンパス、かつみキャンパスの教員や学生による出前講座「出張キャンパス」を実施しています。



昨年の出張キャンパスの様子

私たちの生活に身近な話題をわかりやすく、楽しく教えていただきます。

ぜひ、総合学習の時間等でご活用ください。きっと新たな発見がたくさんあります！

詳しくは、

県立大学小浜・かつみキャンパスを育てる会事務局（小浜市未来創造課内） TEL 0770-64-6148（直通）

までお問い合わせください。



令和8年
白樺祭開催日

10 / 3（土）～4（日）

小鯛ささ漬けの原料“キダイ”を 安定供給するための完全養殖技術の開発

先端増養殖科学科

キダイ（レンコダイ）は、水産加工品として初めて地理的表示保護制度（GI）に登録された「若狭小浜小鯛ささ漬」の原料で、若狭の食文化を代表するとともに、漁業生産から加工・流通・販売、さらには観光まで、地域の多様な産業で重要な役割を果たしてきました。一般に「小鯛ささ漬」という名称で呼ばれるようになったのは、昭和に入ってからですが、その歴史は、江戸時代に名を馳せた「若狭小鯛」に遡り、京都に海産物を供給する港町小浜の歴史に大きく由来するといわれています。小浜市内の加工業者は、「小浜ささ漬け協会」を組織し、企業間競争はあまり行わず、「若狭の名産品」として「小鯛ささ漬」の名前を広げ、販売量を増やし、そうした中で自社の経営を維持していく方針をとっています。このように経営面だけでなく地域文化の継承のために、企業としてのさまざまな努力が重ねられてきました。しかし、協会の方達から、ささ漬けに用いられるキダイが50g程度の幼魚であることや、底曳網漁業が休漁の夏季（6月から8月）に必要量を確保できないなど、現状に対して多くの不安を抱えていることを伝えられました。さらに、かつては小浜市に水揚げされたキダイを使用していましたが、漁獲量の減少した現在では、90～95%を他の地域（主に九州、日本海西部）から購入しているのが現状です。

現時点での課題を整理すると、以下のようにまとめられます。

1. 水産資源管理の観点から、未成魚の漁獲規制が行われる可能性があり、そうなれば原料調達が困難になってしまう。
2. 仕入のお金（原料の90～95%分）は県外へキャッシュアウトしている。
3. 生産効率を考えると、理想は体重50g～60gの幼魚であるが、天然の魚であるため、基本的にサイズが不揃い。また、鮮度も安定していない。
4. 底曳網が禁漁となる6月～8月は、原料が手に入りやすく、調達コストが上昇する。

これらの課題を解決することを目的として、福井県立大学先端増養殖科学科の発足を契機に連携協定を結んだ、福井県立大学海洋生物資源学部、ふくい水産振興センター、関西電力の3機関による「キダイの完全養殖技術開発プロジェクト」が立ち上げられました。これまでキダイの養殖生産に関する知見はありませんでしたが、県立大学が20年以上前に実施したキダイ研究の成果を活用することができました。キダイの産卵期には、地理的変異がみられ、東シナ海南部では、ほぼ周年産卵しますが、主要漁場の北限に近い若狭湾は、秋季に1回の産卵ピークであることがわかっていました。本プロジェクトでは、飼育下で東シナ海の生息環境と生物特性を再現することによって、成熟を促進する性ステロイドホルモンの打注なしで、7月（おそらく6月下旬に始まっていた）に若狭湾産キダイを自然産卵させることに、初めて成功しました。また、翌年の3月以降まで、ほぼ連続的に産卵が継続することも確認されました。この成果は、年間を通して養殖用稚魚を生産する技術につながります。

7月に得られた受精卵を水温25℃に維持したところ、約1日で孵化し、30日齢で平均全長9.3mm、80日齢で59.7mm、120日齢で約100mm（体重約20g）に成長しました。その後も育成を続け、249日齢のキダイで製造した「小鯛ささ漬」の試食会を3月16日に開催することができました。天然キダイは、ささ漬けサイズの50gまで成長するために約2年必要ですが、本プロジェクトでは、約8カ月に短縮することができました。試食会では、貴重な意見や助言をいただきました。キダイの特徴である美しい体色発現に関する課題もみえてきました。今後、育成しているキダイから養殖種苗を安定して生産できる技術を確認することが目標です。しかし、本プロジェクトはまだ初期段階にあり、技術の基盤になる科学的な検証がまだできていないため、実験規模での研究も並行して進めることが重要と考えています。

地方の水産増養殖産業を創出、維持するためには、対象とする養殖事業の現状を正確に把握し、課題を科学的情報に基づいて整理することが必要になります。そのうえで、研究開発の到達目標・時期を設定し、それらと平行して、事業座組や体制の構築・事業場所の確保・商品のブランディング等の検討が必要になります。決して結論ありきでなく、冷静かつ客観的に事業内容を検討し、現実的に事業化できるかを判断することが重要と考えています。キダイの完全養殖技術を確認し、地域全体の幸福感を少しでも大きくすることを目指しています。



キダイ孵化仔魚



育成したキダイ幼魚

福井県立大学海洋生物資源学部の概要

沿革

- 平成 4年 4月 福井県立大学 開学
- 平成 5年 4月 福井県立大学小浜キャンパス 開設
- 平成 8年 4月 福井県立大学大学院博士前期課程開設
- 平成10年 4月 福井県立大学大学院博士後期課程開設
- 平成15年 3月 海洋生物資源臨海研究センター開設（堅海）
- 平成19年 4月 公立大学法人化-「公立大学法人福井県立大学」に移行
- 平成21年 4月 海洋生物資源学部 開設
- 平成24年 9月 若狭高校と連携協定締結
- 平成25年10月 小浜キャンパス開設20周年記念式
- 平成29年 3月 県立大学と小浜市において「包括的連携に関する協定」の締結
- 令和 4年 4月 福井県立大学かつみキャンパス開設 海洋生物資源学部に「先端増養殖科学科」開設



学生状況

(令和8年4月現在)

		学 生 数	
海洋生物資源学部	海洋生物資源学科1年（永平寺キャンパス）	52名	（男：37名 女：15名）
	先端増養殖科学科1年（永平寺キャンパス）	34名	（男：28名 女：6名）
	海洋生物資源学科2～4年（小浜キャンパス）	166名	（男：121名 女：45名）
	先端増養殖科学科2～4年（かつみキャンパス）	97名	（男：76名 女：21名）
大学院	博士前期課程	海洋生物資源学専攻（小浜・かつみキャンパス）	32名（男：22名 女：10名）
	博士後期課程	海洋生物資源学専攻（小浜・かつみキャンパス）	11名（男：9名 女：2名）
合 計		392名	（男：293名 女：99名）

就職・進学状況 (令和8年3月末現在)

内 定 状 況 … 全体：100.0% 男：100.0% 女：100.0%

主な県内就職先 … 福井県漁業協同組合連合会、福井システムズ（株）、福井県庁、小浜市役所 他

主 な 進 学 先 … 福井県立大学大学院、東京海洋大学大学院

教職員状況 (令和8年4月現在)

教員

	教授	准教授	助教
海洋生物資源学科	11	6	2
先端増養殖科学科	7	5	
合 計	18	11	2

事務職員

	事務	司書	専門員・事務補助等
小浜キャンパス	4	1	9
かつみキャンパス	2		4
合 計	6	1	13

学生 インタビュー



海友会会長

氏名：荒木 孝仁
学科：先端増養殖科学科
学年：3年
出身地：兵庫県

1 福井県立大学（海洋生物資源学部）に進学したきっかけは？

福井県立大学に進学したきっかけは小学生の時に釣りをしたことです。私の住んでいた地域は海まで車で1時間ほどかかる場所に位置しており、月に何回もいける環境ではなかったです。そのような環境だったので釣りのために海に行くことは私の中で特に印象に残っている経験でした。この経験から、海への憧れが強くなっていきました。海に近く海洋について学ぶことができ、地域と密接に関わっている福井県立大学に魅力を感じ、進学いたしました。

2 現在どのような勉強（研究）をしていますか、これから取り組みたい研究分野は？

魚類をはじめ、微生物や藻類など海洋生物資源に関わる分野について学んでいます。それに加え、先端増養殖科学科では魚の免疫や遺伝、実習などでは実際に養殖されている施設の見学や養殖する上で重要な魚のワクチン接種を行いました。私は魚の生理学や遺伝学に興味があるので、魚の生態や遺伝について学び消費者の方々に新鮮で美味しい魚介類を届けるための研究をしたいと考えております。

3 休日（+夏季・春季休暇）はどのように過ごしていますか？

休日はバイトや友人とお出かけが中心です。バイトがある日はバイトの前後に小浜市内で遊ぶことが多いです。また、友人とお出かけは小浜市内から大阪等の県外まで様々な場所に行きます。長期休暇は友人との旅行が多く、旅行が無い日は主にバイトや趣味を満喫しています。

4 小浜の印象は？

最初の印象は海が近く、自然豊かでのどかな場所だと感じました。魚市場や付近のお店では新鮮な魚介類が多く並んでおり、食べ物が非常に美味しい場所だと思います。

5 一言アピール等

今年の白樺祭のテーマは「海覚」(KAIKAKU)です。今年の白樺祭はより海洋らしさを出すことを目標に取り組んでいます。白樺祭にお越しいただいた方々が海や魚介類のすばらしさを感じていただけるような学祭にしたいという思いが込められています。また、学祭準備全体の見直しやSNSを用いた新しい仕組みの協賛など、今までの仕組みをKAIKAKUするという思いも込められています。みなさまと白樺祭でお会いできること海友会一同心よりお待ちしております。

県立大学海洋生物資源学部を卒業後に地域で働く若者を紹介します



宇久定置網有限会社

おおせ ちあき
大瀬 千空 さん

海洋生物資源学部 先端増養殖科学科

令和7年度卒

出身は滋賀県です。幼い頃から自然や海に強い興味があり、海について専門的に学びたいと考え、福井県立若狭高等学校海洋科学科を経て、福井県立大学海洋生物資源学部へ進学しました。

大学では先端増養殖科学科に所属し、小浜湾のマサバに寄生するアニサキスに関する研究を行い、種判別や活マサバ筋肉中での寄生状況調査に取り組みました。

現在は宇久定置網に入社し、漁師として毎朝の網上げをはじめとしたさまざまな業務に励んでいます。自然の中で働くことが目標だったため、毎日海に出て働けることに大きなやりがいを感じています。一日でも早く仕事を覚え、会社に貢献できるよう努力していきたいと思っています。



小浜市役所 上下水道課

かわら みはや
河原 美颯 さん

海洋生物資源学部 海洋生物資源学科

令和7年度卒

出身は小浜市です。海が身近にあり、小さいころからよく魚釣りに行っていました。その影響もあり、高校・大学と海洋について学ぶ学科に進学しました。

大学では、小浜湾内に流入する河川の栄養が、過去と現在でどのように変化しているのかなど、主に水質の環境について研究していました。

学生時代は、友人と旅行に行くことが多かったです。長野県や鳥取、北海道まで様々な土地を巡り、おいしいものを食べていました。

現在は、小浜市役所の上下水道課で働いており、主に排水工事に関わる事業費や、補助金申請などを担当しています。難しい業務ではありますが、様々な方からご教授いただき、日々奮闘しています。

今小浜市は、ドラマの影響で全国から注目されています。この機会を逃さずに小浜市職員として、また小浜市に住む若者の一人として小浜を盛り上げていきたいと思っています。

令和8年度会員募集のお知らせ

「県立大学小浜・かつみキャンパスを育てる会」は、これまで地域と大学との結びつきを深め、地域に開かれた大学、地域住民に親しまれる大学となるよう、オープンカレッジや白樺祭など各種事業への支援や学生と会員・地域との交流事業など独自のイベントを開催し、積極的に事業を推進しています。

今後とも、育てる会の活動にご協力をお願いします。

主な活動内容(令和7年度の活動実績)

- * 大学と地域の連携強化に向けた取り組み
- * 白樺祭への支援
- * 教員、学生と会員、地域との交流
- * 出張キャンパスの実施
- * 学生が体験する定置網漁への支援

年会費：個人会員 3,000 円 団体会員 10,000 円
 申込方法：電話もしくは下記までお越してください。
 問合せ先：「県立大学小浜・かつみキャンパスを育てる会」
 (小浜市 未来創造課内)
 TEL:0770-64-6148(直通)

団体会員

小浜市
 美浜町
 ホテル アーバンポート
 株式会社オーイング
 小浜市議会
 小浜市校長会
 小浜商店街連盟
 桑田テント 株式会社
 有限会社 タカノ
 株式会社 国富
 福井缶詰 株式会社
 株式会社まちづくり小浜「おばま観光局」
 矢代観光協会
 (一社)若狭おばま観光協会
 (一社)若狭青年会議所
 若狭湾観光 株式会社

おおい町
 若狭町
 株式会社 イワタ
 小浜魚商協同組合
 小浜市漁業協同組合
 小浜市食品加工協同組合
 小浜信用金庫
 京福コンサルタント 株式会社
 大和交通 株式会社
 有限会社 平田印刷
 福井銀行 小浜支店
 株式会社 ママーストアー
 株式会社 ラボ
 福井県立若狭高等学校
 若狭とびうお会

高浜町
 株式会社 アイビックス若狭支店
 小浜上田建材株式会社
 小浜海産物 株式会社
 小浜市区長連合会
 小浜商工会議所
 小浜製綱 株式会社
 ホテル せくみ屋
 株式会社 時岡組
 株式会社 平田不動産
 株式会社 ファニーアート
 株式会社 MIFUKU
 れいなん森林組合
 若狭河川漁業協同組合
 福井県農業協同組合 小浜支店

個人会員

秋道 優太	東 武雄	阿部登記造	石田 一郎	一圓 敏彦	市橋 和廣	伊藤 秀幸
猪嶋 宏記	今井 静雄	岩崎 好信	岩田 拓美	岩田 敏夫	内田 篤宏	浦谷 俊晴
江上 恒夫	大山 祐子	岡 拓司	岡田 昌樹	岡本 紗季	奥城 直喜	小畑志津子
垣本 正直	片山 守	角野 覚	加門 健二	川嶋 和雄	川代 友広	川代 雅和
川道 明	木崎 秀治	貴志 和之	岸本 洋一	北尾 一成	木村 清美	窪田 光宏
熊谷 久恵	小坂 康之	小寺 光雄	小西 淳二	小林 尚貴	佐藤 善一	澤谷 欣弘
塩野喜一郎	食見 直孝	食見 礼子	重田 洋輔	下仲 隆浩	芝 和繁	嶋田 幸起
清水 淳彦	清水 博敬	下口 浩司	新野 秀志	杉左近孝夫	杉谷 正美	杉本 和範
善定 末雄	高鳥 徹也	高橋 敏恵	高山 智子	竹内 裕喜	田中孝次郎	谷口 竜哉
玉川 正隆	團 留美	檀野 清隆	辻 日出雄	堂前 廣	時岡 拓真	中島 嘉文
仲谷 齊士	中西 武司	中野 春雄	野路 進	能登 恵子	橋本長一朗	畑田 恭央
浜頭 浜江	浜岸 吉満	東野 克拓	日比野伸彦	福谷 敏弘	藤田 和弘	古谷 義次
前川 昭彦	松岡 靖洋	松崎 晃治	松原 拓也	松見 一彦	松山 貢	的場 貴志
三原 一太	宮台 俊明	宮本 慎一	森下 博	森下 裕	山岸 博之	山口 雅巳
山崎 正博	山副喜代美	山本 祐也	湯上 忠明	吉岡隆太郎	吉田 善人	吉田 良三
吉村 明	四方 宏和					

■ 上記の皆さまにご入会いただいております。(令和8年5月現在)

発行：県立大学小浜・かつみキャンパスを育てる会 会長 杉本 和範 事務局：小浜市 未来創造課